☆聖書で祈る☆　　：行って働くよう呼びかけられている私たち

マタイ20：1～7　「ぶどう園の労働者」

1:「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。2:主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。3:また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、4:『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。5:それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。6:五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、7:彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。

▽参考資料▽

『信徒の召命と使命』第３項（現代世界の急務）

教会においても、社会的、経済的、政治的、文化的生活においても、今日の新しい状況は、信徒の活動をとくに緊急なこととして要求しています。今までも無関心であることは決して許されていませんでしたが、今日では非難されるべきことなのです。何もしないでいることは、だれにも許されません。

・・・わたしたちはこの世界を、その価値と問題、希望と不安、成果と失敗を合わせて直視しなければなりません。世界の経済、社会、政治、文化の状況は第二バチカン公会議が『現代世界憲章』のなかで描写したよりも、さらに重大な問題と困難をかかえています。これこそ信徒が使命を果たすために呼ばれているぶどう園、耕作地なのです。

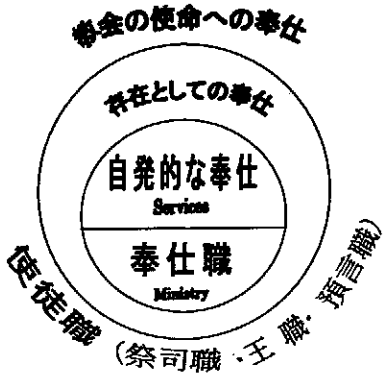
『信徒の召命と使命』第28項（教会生活への参加のしかた）

・・・神は、イエス・キリストにおいて、わたしたち一人ひとりを名前で呼ぶのです。この意味で、「あなたたちもぶどう園に行きなさい」という教会全体に向けられた主のことばは、個人一人ひとりに特別に呼びかけられているのです。・・・

《解　説：信徒奉仕職の位置付け(右図参照)》

「奉仕職」に関する基本的なことばについて、大まかな内容を説明します。詳しくは後ほど各項目で取り上げますので、そこでさらに確認してください。

1. **教会の使命への奉仕**：教会は、キリストの福音宣教・人びとの救いのための働きを受け継いでいる。
その働きは、**使徒職(祭司職・王職・預言職)**とよばれる。
2. **存在としての奉仕**：誰もが、そのあり方・生きざまにおいて、存在そのものとして人びとへの奉仕の役割を担っている。
3. 奉仕の仕方には、**自発的な奉仕**(誰もがたまたま出会って必要なときに行うもの)もあれば、**奉仕職**(教会からの承認を受け、継続的な役目として行うもの)もある。
4. 奉仕職をさらに分類すると、司祭などの「**叙階による奉仕職**」と、信徒による「**任命による奉仕職**」とに分けられる



☆これらの奉仕のどれもが、教会がキリストから与えられた使命を果たすために欠くことができないものであり、働きは異なっても、互いのあいだに優劣はない。